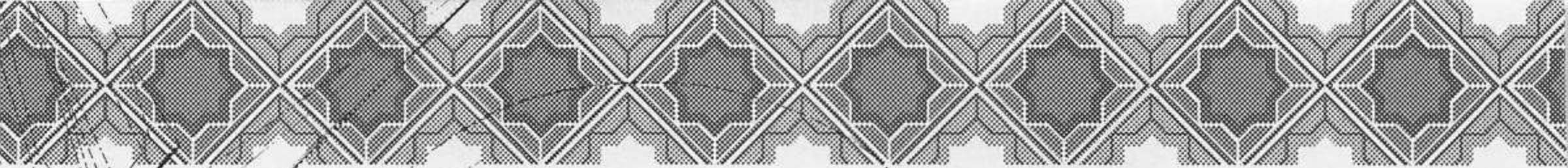


797 SKB Presents

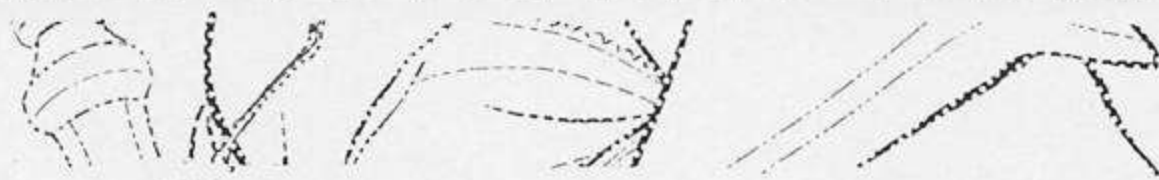
「雪菜、指導中の件」 性奴指導中の件」



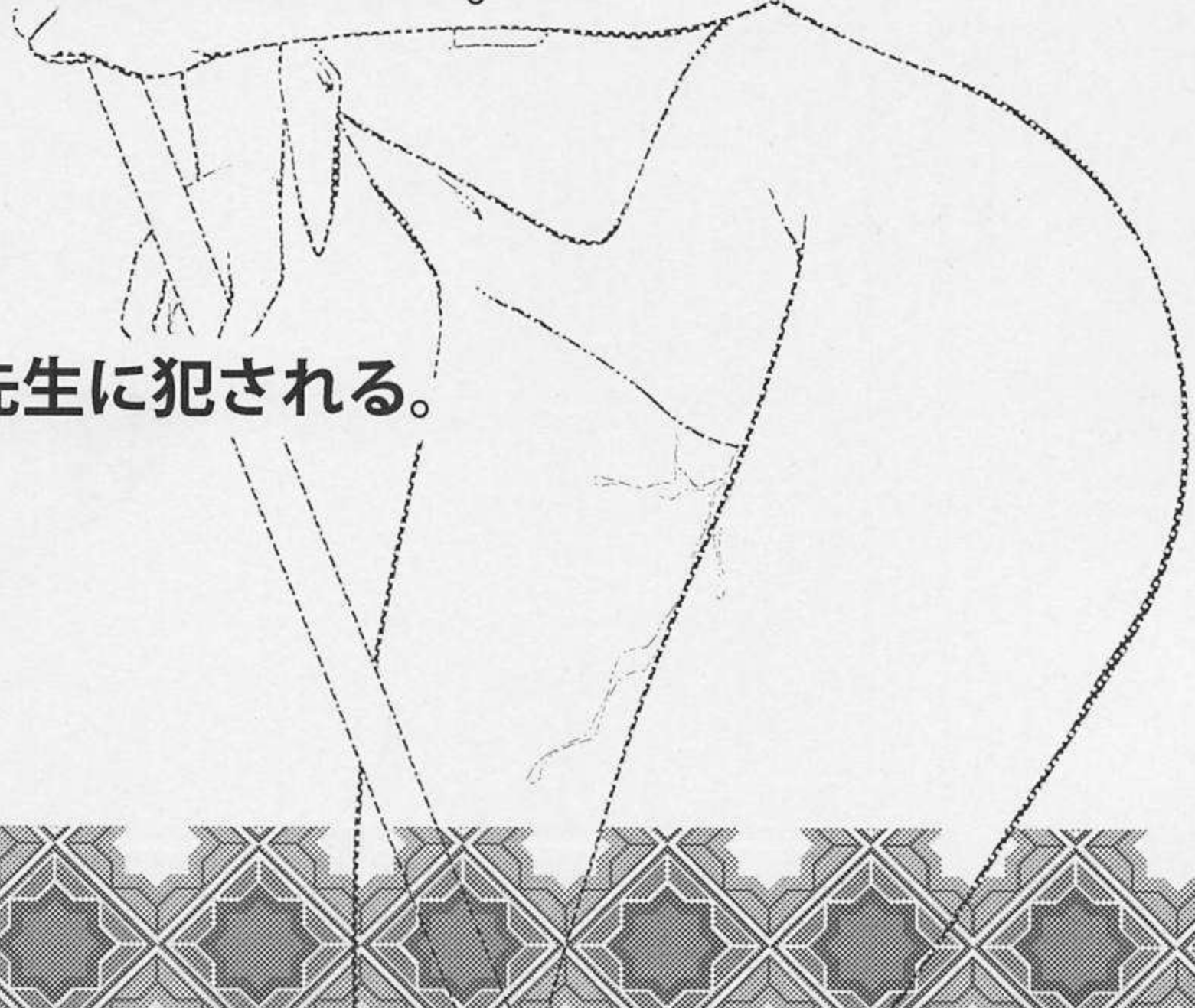
成年向け
For Adult Only



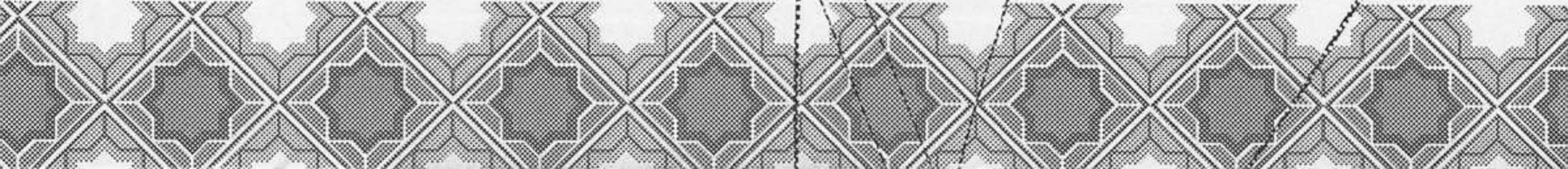
生徒指導室に呼び出されたあの日、私は犯された。




**今まで男の物を迎え入れたことの無かった私の
オマンコは先生の汚らしいチンポの形に
何度も何度も押し広げられ、
一番奥に精液を吐き出された。**



私は今日も先生に犯される。






私の事を何度も何度も犯した憎いチンポ。

はちきれそうに固くなって血管が浮き出てる。
吐き気がする。でも我慢。
どの道気持ち悪くて吐き出しても無理やりくわえさせられる。
こんなこと、早く済ませてしまったほうがまだ。

「おっおっ出るっ！」ビクッビクッ。
口いっぱいネチャツとした
薄黄色い膿みたいな精液が出される。


「……っ」ごくっごくっ
精液の飲み残しは許されない。
……先生の精液が
私を狂わせようと体の中にしみていく。
催淫剤、なのだ。



「…っ先生せめてコンドームを…っ」
「今更だろう？いいからいいから。」
いくら私が懇願しても先生は聞いてくれない。

今日も生で先生のチンポが入ってくる。
大きい。
息が…一瞬できなくなる。
何度されてもこの瞬間は怖気が走る。


私の中のやわらかくて感じてしまう
女の子の一番大事な部分を
固くて太い異物が
いつもの形に広げようとして入ってくる。



グリッグリッとちんぽが
私の膣内をかき回す。
どこをいじるとどうなるのか、
どうすると気持ちがいいのか、
先生は私より私の体を知ってる。

「あああああああつ」
チンポを出し入れされながら、キスされたり、
乳首をきゅうっとねじられたりすると
体中に電気が走る。「ひああつ!？」

一番奥までググッと押し込まれたと
思ったら熱いのがお腹いっぱい広がった。
ドクドクッ。「あ…ああ…つ」
「…ふううつまったくお前の中は最高だぜ」
今日も…中出しされた…。




登校中の電車にも先生は現れた。
「や、やめてください…っ。先輩がそばに…っ!」
「まさかすぐそばでこんな目に遭ってるとは思わないだろう? 知られたくないなら普通にしてるんだな」
「…っ」

ぎゅううっと乳首をつままれる。
思わず声が出そうになる。
先生はいやらしく笑いながら
オマンコの入り口を散々なぶったあと、
指を入れてきた。一本、二本。

私の敏感なところは
先生に知られている。
ぐりぐりっと引っかかれる。
「〜〜っ」声が出そうになる。

指で散々私の敏感な部分をなじったあと、
先生のチンポが私の中に入ってきた。
「うそ…こんな所で…」
電車の揺れに合わせてチンポが
ゆっくり出し入れされる。浅く。浅く。深く。浅く。
こんな酷いことされてるのに、いつの間にか、
オマンコはびしょびしょになって…



そのまま駅の男子トイレに連れ込まれた。
「んうっ」
明らかにいつもより大きくなったチンポが入ってくる。

「いつもより興奮してるじゃないか。
奥から愛液がどんどんあふれてくるぞ。
見られたのが良かったのか？
くっくく。この変態女子〇学生が!!!
(うそ…っそんなわけ…っ)」

興奮した先生は
そのまま3回も中出した。

「戻らないとみんなが…っ」
球技大会でチアガールの格好をしていたら、
先生に屋上に連れてこられてしまった。
「わ、私まだ濡れてな…」
ずぶっ!!いきなり凄く固くなったチンポが入って来る。

オマンコが引きつれる感覚があったけど、
すぐにチンポになじみ始める。
「あっあっあっ」
パンパンパン。先生は勢いよく腰を打ち付ける。

大きく広がったチンポのえらが
私の敏感なところを攻撃する。
「あっんああっ」

「誰かが上見たら大変なことになるな？
チアガールが屋上でセックスなんて」
「だ、だからもうやめてくださ…」
「お前のここはそんなこと言っていないぞ!!」

…結局、^{なか}膈内に精液が入ったまま
チアガールをさせられた。


体育の授業が終わったあと
更衣室に向かおうとしたら
保健室に連れ込まれた。
「この時間保険室は貸切だ。」

汗をかいた体を先生が舐めまわす。
「女子中〇学生の汗…っ」
体中。特に汗をかいている場所を念入りに。

わきの下、オマンコの脇、お尻の割れ目。
「~~~~っ」
ナメクジが這い回っているような感覚。

でも。そんなに
しつこく舐めまわされたら
感じてしまう。
「濡れてきたぞ」
「…っそっちは…っ」

お尻の穴を今日は犯したかったらしい。
「あああああっ」
私はお尻の穴でも感じてしまうよう
になってしまった。
授業1時間分ずっと、犯され続けた。



先生は家にまで押しかけてきた。
ディープキスで口の中をいっぱい味わわれたあと、
フェラチオをしてパイズリをして、先生のチンポを喜ばせる。
これが私を散々犯したチンポ。ずりゅうっと奥に入ってくる。

「あんあんっ」

思わずはしたない声が出てしまう。
「なかなかいい鳴き声をするように
なったじゃないか」
「あ、ありがとうございます」
うれしい。なんだろう。
先生がとっても魅力的に見える。

胸がドキドキする。
もっと、もっと奥までください。
チンポが気持ちいいんです。
私の、気持ちいいですか。
先生の形になっちゃったオマンコ、
気持ちいいですか。

「ひああああんっ」
「くっくっ。すっかり俺のチンポの
とりこみたいだな？」

「もっと。もっと下さいっ」
「よおし。よおし。孕ませてやる。
妊娠させてやるぞ。姫柊!!」

「来て!来て下さいっ!!妊娠するくらい
たくさん出して下さい…っ!!」
「まあ、もう妊娠してるかも知れないけどな!!
孕め姫柊~!!」

——いつものように
沢山中で出してもらいました。
ああ……………、先生大好き……………。

残念
時間切れ。

今回は本来出す
はずだったものに 下はびた
ちがいます。なので 雪菜本の
2冊ほどはありますが、まあ

冬の本の補完 みたいな
ものですよ。次は本当の
雪菜本 2冊目と お会いしましょう。

「雪菜、性奴指導中の件」

発行: Studio SKB

発行者: 綾坂みつね

発行日: 2014/04/29

印刷: 二毛印刷工房様

<http://offbiz.sakura.ne.jp/diary/>

Twitter: mitune49

Pixiv: <http://pixiv.me/hitagiri>





Studio SKB
2014 SPRING